

進捗状況の概要（2ページ以内）

① 大学改革の加速

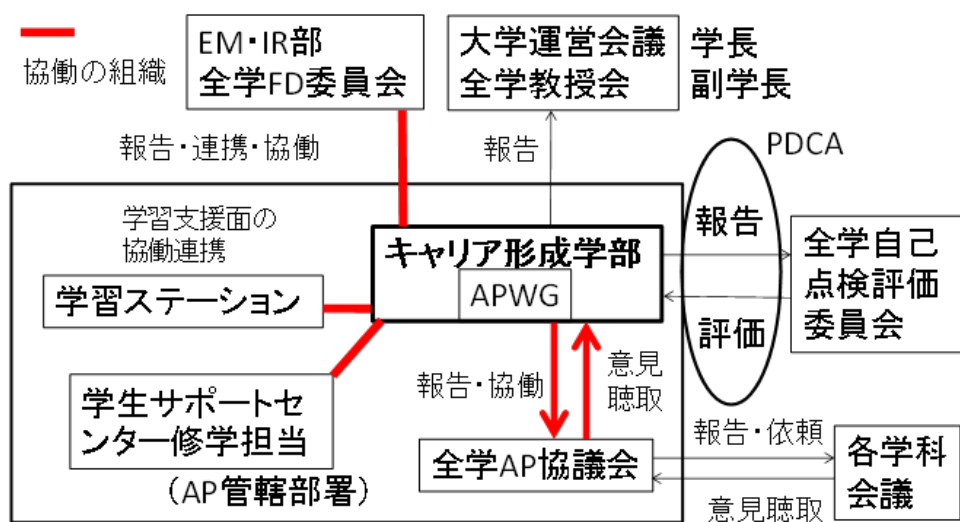
主に以下のaからcの3点について、全学的な改革が加速されている。

a. 授業改革：APWGの教員が中心となってプレゼンテーションやペアワーク、クリッカーの活用、ワークシート作成とそのフィードバックなど、多様なアクティブ・ラーニング手法で授業改革を推進した。それらの推進が波及して全学的にアクティブ・ラーニングが行われた。EM・IR部が前期科目について専任教員対象に授業デザイン調査を平成30年度も実施し、その結果を全学FD委員会、各学科会議で共有、議論し、さらなる授業改革につなげた。

b. アセスメントに基づく学びと教育の改善：APで開発したアクティブラーナー水準調査を全学科、全学年を対象に実施し、また社会人基礎力に関する外部テストを全学2年生対象に実施した。調査及びテストの全学・各学科の分析結果を全学FD委員会で共有・議論し、個別学生に各自の分析結果をフィードバックした。また、EM・IR部が前後期に学生の授業評価、後期に学習行動調査を実施し、分析結果を全学FD委員会、各学科会議で共有・議論した。学生の学習行動や学修成果について多様な観点で直接評価、間接評価を行い、それらの結果を学生にフィードバックや教員間で共有、議論を通じて、学生は学びを、教員は教育を改善した。

c. 学科間および部署間の連携：定期的な学修支援の協議（全学AP協議会、学習ステーション運営会議など）、アクティブラーナー水準調査の実施と結果の共有、FD研修会やAP成果報告会の推進など、多様なAP推進を通じて学科間や部署間で密に連携がとられた。AP推進過程を通じて、目標達成に向けた全学的な教職協働体制が強化された。

② 事業の実施体制



アクティブラーナー育成の学習環境構築と成果検証

キャリア形成学部内のAPWGで事業の企画立案、進捗把握をし、同学部の会議で事業の審議を経て、全学AP協議会、全学FD委員会、学習ステーション運営会議などAP事業の審議、依頼、協働、共有などを図った。学習ステーション内で、上級生がピアサポーターとして下級生に学修支援を行った。AP協議会および全学FD委員会で、アクティブラーナー水準調査の実施、AP成果報告会など、全学的な協働のもと実施推進した。随時、大学運営会議で全学的なAP事業推進に向けた審議、AP成果等の報告を行った。学生サポートセンターがAPの管轄部署として、EM・IR部および学務企画部がEM推進に向けたIRデータ収集・分析と全学FDの管轄部署として、教職協働体制の構築を図った。

③ 事業の実施計画・継続性

アクティブラーナーの育成に向け、4つの領域「A：授業改革」「B：授業外学修支援」「C：ルーブリックの導入」「D：アクティブラーナー水準調査の開発・実施」を中心に以下、AP事業を推進した。4領域の全学的な取組推進を図るため、補助期間終了後も以下のように全学的な協議会を継続運営する実施計画である。

- ・「領域 A：授業改革」「領域 C：ルーブリックの導入」について、キャリア形成学部を中心にアクティブ・ラーニング授業の実践と研究を推進し、その成果を全学的な協議会で議論、共有し、その結果を各学科会議でも議論、共有して全学的な推進を図る。EM・IR部が全学的なアクティブ・ラーニングの授業実践の状況を毎年度調査し、その分析結果を全学FD委員会で議論、共有を図る。

- ・「領域 B：授業外学修支援」について、学習ステーションに常時在室の教職員として、平成30年度は専任教職員2名とAP採用教員1名の3名体制で丁寧な学修支援を行った。AP採用教員の契約は平成30年度で終了となるため、次年度も教職員3名の体制が取れるよう人事調整を図った。

- ・「領域 D：アクティブラーナー水準調査」について、企画立案をキャリア形成学科のAPWGと学科会議で行い、全学FD委員会で共有、議論の上、EM・IR部と学務企画部が調査を実施する体制を継続、発展させる。

④ 事業成果の普及

AP事業の予定や進捗等を定期的に本学のAPホームページに公開した。徳島大学（テーマIの幹事校）が中心に取り組み、開発した、アクティブ・ラーニング・オンライン（ALO）に本学のAP事業の進捗状況を投稿し、テーマIの採択校や教育関係者と取組の共有を図った。AP幹事校会議主催のチームAP合宿（9/10～9/11）に参加し、多くのAP採択校とのAP事業推進の共有や議論を通じて、本学のAP事業成果の普及につながった。AP成果報告会（3/12）を、上記の領域C「ルーブリックの導入」の取組成果を中心に、報告会テーマ「学修成果の評価基準の明確化とフィードバック効果」で実施した。午前は学習ステーションの見学説明会として、参加者に教職員と学生チューターが学修支援について説明し、午後は報告会を行い、学内外の大学・教育関係者にAP事業成果を発信した。平成30年度のAP成果をまとめた年次報告書を発行し、学内のAP・FD関連の教員や関連部署、AP採択校などに配布、郵送して学内外での共有を図った。また、AP事業の成果を学会、学術論文等で発表し、学外へのAP事業成果の波及につなげた。

⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

上図の通り、実施責任学部であるキャリア形成学部が全学共通科目を中心にアクティブ・ラーニングの推進を図ってきた。補助期間終了以降も、全学共通科目の授業方針や学生指導などを議論・推進、またアクティブ・ラーニングを引き続き活性化していく全学的な組織として、令和元年度より「リベラルアーツセンター」を発足させることが大学運営会議で承認された。同センターの組織改革が円滑に推進されるよう、テーマ「基礎教養と専門の接続」でFD研修会（2/28）を実施した。FD研修会では、次期学長が講演を行い、リベラルアーツセンターの所属教員がリベラルアーツ教育科目（平成30年度までの全学共通科目）の概要を説明し、各学科教員がリベラルアーツ教育科目と専門科目の接続について現状と検討点を報告・共有した。